



愛書総覧 ちひろの本棚

10月1日(土)～11月30日(水)

夢のようないい気持ちになった

— 子どものころに読んだ雑誌「コドモノクニ」

娘時代に愛読した宮沢賢治の詩

100年の年代の差をこえて

かわらないうつくしさを

なげかけてくれる

— くり返し描いたアンデルセン童話



1-1, 笛を吹く少年と本を読む少女 1960年代前半



1-2, アトリエにて(50歳) 1970年

本からひも解く“画家・いわさきちひろ”の世界

愛読書には、その人の生き方や思想が映し出されます。いわさきちひろは、どのような本を読み、絵を描くときの参考にしていたのでしょうか。

幼いころ、モダンな世界に心躍らせた雑誌「コドモノクニ」、娘時代に、その生き方と文学に深く共感した宮沢賢治……。今も生前のままに保存されているアトリエ(ちひろ美術館・東京内)には、ちひろの感性を育んだ文芸書のほか、美術書、植物や動物図鑑、育児書、料理本など、母として、画家としてのちひろの姿を物語る蔵書が多く残されています。

本展では、作品とともに、アトリエの書籍や資料を展示し、創作の源泉を探ります。“本”を通して浮かび上がる、ちひろの人生と画家としての足跡をご覧ください。



1-3, 風船とまい上がるパスカル
「あかいふうせん」(備成社)より 1968年
1-4, 夫・善明と(画集をのぞく二人) 1968年



展覧会名 愛書総覧 ちひろの本棚

会期 2016年10月1日(土)～11月30日(水)

○開館時間＝9:00～17:00

○休館日＝第2・4水曜日

会場 安曇野ちひろ美術館 展示室1

料金 大人800円／高校生以下無料
団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は100円引き／障害者手帳ご提示の方は半額、介添えの方は1名まで無料／視覚障害のある方は無料／年間パスポート2500円

主催 ちひろ美術館

展示会の見どころ ちひろの愛読書、公開！

ちひろの感性や興味、創作時の調査のようすなどをうかがい知ることができるちひろの愛読書を、作品とともに一挙公開します。ちひろの人生を辿りながら、各年代を代表する作品を展示し、蔵書を手がかりに浮かび上がる、画家ちひろの創作の舞台裏を紹介します。

7つのテーマでひも解く創作と蔵書の関わり

「ちひろの原点」「画家を目指して」「アンデルセン」「日本の文学」「平和への思い」など7つのテーマから、蔵書とちひろの創作との関わりを探ります。

ちひろの晩年のアトリエを再現

東京・練馬の下石神井（現 ちひろ美術館・東京 所在地）のちひろの自宅にあったアトリエには大きな本棚がありました。本展では、このアトリエの1972年頃の様子を復元します。

主な出展作品 『にんぎょひめ』（偕成社）1968年、『たけくらべ』（童心社）1971年、『花の童話集』（童心社）1969年、『ことりのくるひ』（至光社）1971年、『戦火のなかの子どもたち』（岩崎書店）1973年 ほか

出展作品数 約60点

関連イベント ●ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、担当学芸員が展示のみどころなどをお話します。

日時：毎月第2・4土曜日 14:00～14:30

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室1

料金：無料（入館料別） 申し込み：不要（参加自由）

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。 ※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。 ※掲載紙／誌をご送付ください。



1-5,美登利『たけくらべ』（童心社）より 1971年



1-7,船を見つめる人魚姫『にんぎょひめ』（偕成社）より 1967年



1-6,シクラメンの花のなかの子どもたち『戦火のなかの子どもたち』（岩崎書店）より 1973年



<企画展>

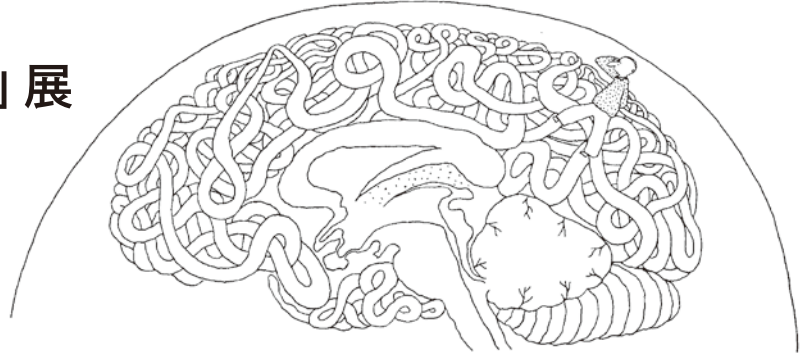
没後10年「長新太の脳内地図」展

10月1日(土)～11月30日(水)

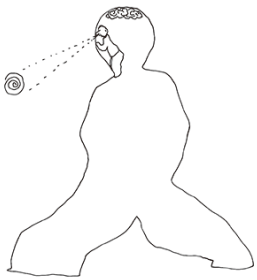
片方の耳をネジのように巻くと

脳ミソのゼンマイが回転を始め

シュルレアリスムふうな発想が鼻の穴から出てくる。 長新太



2-1.<破滅への道>は地図にでているか 1973年

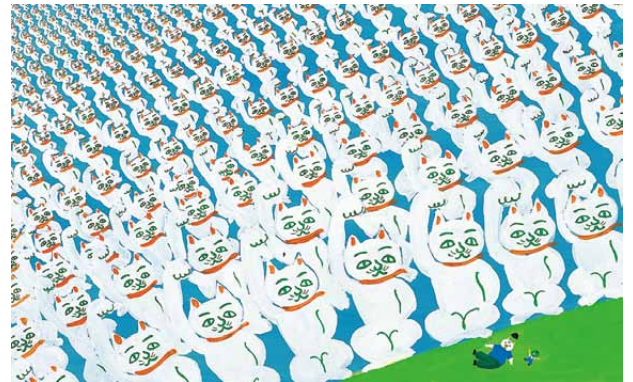


長新太^{ちようしん た} (1927～2005) は、1949年にマンガ家としてデビューして以来、2005年に亡くなるまで、漫画家、イラストレーター、エッセイスト、絵本画家として八面六臂の活躍をしました。なかでも、独特のユーモアあふれるナンセンス絵本で戦後の日本の絵本に新境地を切り拓きました。

本展では、絵本や子どもの本の原画の他、大人向けに発表された漫画やイラストレーションなども展示し、長新太の特異な発想の源泉を探ります。「イマジネーション」、「センスとナンセンス」の2部構成で、10のテーマから約130点の作品を展示し迷宮のように広がる奇想天外な長新太の脳内にご案内します。



2-2、「ちへいせんのみえるところ」(エイプリルミュージック/ピリケン出版)より 1978年



2-3、「キャベツくんのにちょうび」(文研出版)より 1992年

展覧会名 <企画展> 没後10年「長新太の脳内地図」展

会期 2016年10月1日(土)～11月30日(水)
○開館時間=9:00～17:00 ○休館日=第2・4水曜日(祝日は開館、翌平日休館)

会場 安曇野ちひろ美術館 展示室4

料金 大人800円/高校生以下無料
団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は100円引き/障害者手帳ご提示の方は半額、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円

主催 ちひろ美術館

協力 あかね書房、絵本館、偕成社、教育画劇、クレヨンハウス、佼成出版社、講談社、こぐま社、小学館、童心社、徳間書店、BL出版、ピリケン出版、福音館書店、復刊ドットコム、文溪堂、文研出版、ポプラ社、理論社

後援 絵本学会、こどもの本WAVE、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、(公社)日本図書館協会

企画協力 刈谷市美術館、横須賀美術館



2-4、「ゴムあたまボンたろう」(童心社)より 1998年

展覧会の見どころ イマジネーション

たっぷりした筆致と豊かな色彩で描かれた広がりのある空間、擬音語を取り入れた短いことばで展開する荒唐無稽な物語……。長が手がけた絵本には、視覚、聴覚、嗅覚、触覚などが未分化で渾然とした子どもの身体感覚が宿っているようです。作品の根底を貫く、のびやかなユーモアと笑いは、おもしろいことを貪欲に求め、全身で喜びを味わう子どもの感覚そのものです。生の深いところから生まれ出る長の発想を「巨大な……」「イカ・タコ」「ライオン」「変身」の4つのテーマから探ります。



センスとナンセンス

「ナンセンスだからといってひとりよがりではいけない」と語った長の絵本づくりには、過激なラフから徐々に余計なものをそぎ落としていく、演出家のような冷徹な視線がありました。漫画の発想と、生理的な快さを追求した造形感覚で、怪しいものと快いものの両面をときに鋭く、ときに大らかに捉えています。長の奇想天外な作品の背後にあるロジカルな思考と鋭敏で明快な感覚を「長新太の絵本づくり」、「漫画—線の表現」、「ナンセンス」、「ちへいせんのみえるところ」、「快と怪」、「記憶」、の6つのテーマから探ります。

作家プロフィール 長 新太 (ちよう・しんた)

東京に生まれる。1949年東京日日新聞のマンガコンクールに一等入選し、漫画家となる。1958年堀内誠一の勧めで、最初の絵本『がんばんば さるのさらんくん』を手がける。1959年『おしゃべりなたまごやき』で文藝春秋漫画賞、1981年『キャベツくん』で絵本にっぽん大賞、2005年『ないた』で日本絵本大賞をはじめ受賞多数。柔軟で斬新な発想の絵本を発表し続け、日本の絵本界にナンセンスの分野を切り拓いた。

出展作品数 約130点

主な出展作品 『ぼくのくれよん』(新進/銀河社/講談社) 1973年、『はるですよ ふくろうおばさん』(講談社) 1977年、『ちへいせんのみえるところ』(エイプリルミュージック/ピリケン出版) 1978年、『キャベツくん』(文研出版) 1980年、『ゴムあたまポンたろう』(童心社) 1998年、『そそよとかせがふいている』(教育画劇/復刊ドットコム) 2004年、『イカタコつるつる』(講談社) 2004年

関連イベント

●パパ's 絵本プロジェクトの絵本ライブ!

現役のパパたちによる絵本読み聞かせユニット「パパ's 絵本プロジェクト」が、安曇野ちひろ美術館にやってきます。長新太『キャベツくん』も特別出演予定です!

日時: 11月13日(日) 14:30 ~

参加費: 無料(入館料別)

申し込み: 要事前予約 (HP、電話、美術館受付にて)

定員: 40名(先着順) 会場: 絵本の部屋

●ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、担当学芸員が展示のみどころなどをお話します。

日時: 毎月第2・4土曜日 14:30 ~ 15:00

会場: 安曇野ちひろ美術館 展示室4

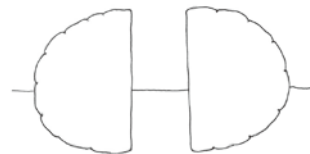
料金: 無料(入館料別)

申し込み: 不要(参加自由)

●長新太だらけのおはなしの会 キャベツくんがやってくる!

日時: 10月1日(土)、11月5日(土)

料金: 無料(入館料別) 申し込み: 不要(参加自由)



関連書籍・グッズ

○『長新太の脳内地図』(東京書籍) ¥1800(税抜)

○展覧会オリジナルグッズ 会期中、本展オリジナルグッズをミュージアムショップにて販売します。

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

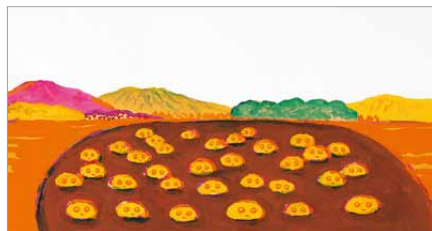
ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。 ※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。 ※掲載紙/誌をご送付ください。



2-5、『イカタコつるつる』(講談社)より
2004年 刈谷市美術館蔵



2-6、『チョコレートパン』(福音館書店)より
2000年



2-7、『ぼくのくれよん』(新進/銀河社/講談社)より
1973年



ちひろ美術館コレクション 無限の夢幻

10月1日（土）～11月30日（水）

イマジネーションの深淵なる世界へようこそ！

絵本のイラストレーションには、夢や幻想の世界を描いた作品が数多く見られます。本展では、ちひろの美術館コレクションのなかから「夢現」をテーマに、奇想やユーモアのセンスにあふれる作品を展示します。世界の絵本画家たちの限りないイマジネーションが生み出す、新鮮な驚きに満ちた非日常の不思議な世界をお楽しみください。

展覧会名	ちひろ美術館コレクション 無限の夢幻
会期	2016年10月1日（土）～11月30日（水） ○開館時間＝9：00～17：00 ○休館日＝第2・4水曜日
会場	安曇野ちひろ美術館 展示室3
料金	大人800円／高校生以下無料 団体（有料入館者20名以上）、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は100円引き／障害者手帳ご提示の方は半額、介添えの方は1名まで無料／視覚障害のある方は無料／年間パスポート2500円
主催	ちひろ美術館

展覧会の見どころ

異界にひそむもの

チェコやスロヴァキア、ポーランドなど東欧の絵本画家の作品のなかには、口承文芸の伝統と深い森を擁した風土を背景に、異界のものたちが姿を現します。現実と幻想を共存させたり、スケールや遠近感を変えて現実を歪曲したりと、画家がそれぞれの手法でとらえた夢幻の世界をご覧ください。

奇妙ないきもの大集合

龍や化身など昔から語り継がれてきた空想上の動物や、さまざまな動物の一部を組み合わせたなどして画家が創造したものなど、奇妙ないきものたちを紹介します。

ナンセンスな物語

洋の東西を問わず、古くから子どもの本には、ナンセンスの詩や物語、絵本が存在します。『ほらふき男爵の冒険』といったナンセンス絵本や、シニカルな視点で風刺の利いた作品も展示します。子どもから大人まで楽しめる、ユニークな作品をお楽しみください。

主な出展作品

ローベルト・ブルン『おかしな家のおとぎ話』より1989年、スタシス・エイドリゲヴィチユス『氷の精』より1979年、アルビーン・ブルノフスキー『スロヴァキアの民話』より1990年、ドゥシャン・カーライ「船乗りシンドバッド」より1989年、ビネッテ・シュレーダー『ほらふき男爵の冒険』より1977年頃 ほか

出展作品数

約30点



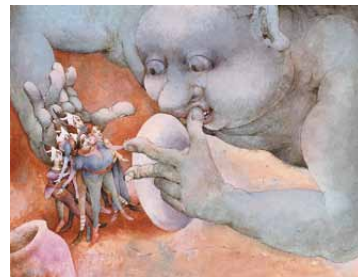
3-1, ローベルト・ブルン「おかしな家のおとぎ話」より 1989年



3-2, エンリケ・マルティネス・ブランコ
ビチート9 1990年



3-3, アルビーン・ブルノフスキー
「スロヴァキアの民話」より 1990年



3-4, ドゥシャン・カーライ「船乗りシンドバッド」より 1989年



3-5, アドルフ・ボルン
大いなる幻想家 1985年

わたしのトットちゃん ピエゾグラフ展

10月1日(土)～11月30日(水)



ランドセルをしょって並んで歩く一年生 1966年

今夏開催したトットちゃん広場オープン記念展「みんな、いっしょだよ。」で募集した、これぞ「わたしのトットちゃん」と思う作品のなかから、特に投票の多かった作品を中心に、ピエゾグラフにて展示します。ちひろの絵とともに、その絵を選んだ人のことばも紹介。わたしのトットちゃん、あのひとのトットちゃん、みんなのトットちゃん、それぞれお楽しみください。

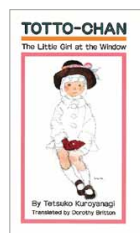
会場：多目的ギャラリー 出展作品数：約30点

世界のことばで楽しむトットちゃん

10月10日(月・祝) 11:00～12:00

『窓ぎわのトットちゃん』は、現在世界 35カ国以上で翻訳され、読まれています。そのなかから、今回はいくつかの言語で、本のなかのエピソードを、日本語とともに、その国の方に読んでもらいます。また、トットちゃんのなかに出てくる歌もみんなで一緒に歌いましょう。世界で愛されるトットちゃんのお話と色々な言語の響きをお楽しみください。

会場：多目的ギャラリー 参加費：無料(入館料のみ) 申し込み：不要(参加自由)



英語



インド(マラヤラム語)



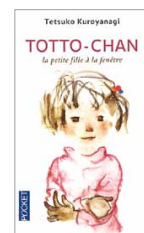
中国



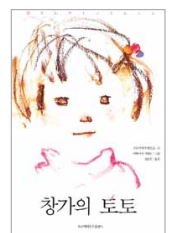
イタリア



ベトナム



フランス



韓国

ちひろ美術館(安曇野・東京) 限定販売

トットちゃんの電車クッキー

トットちゃん広場のオープンを記念し、電車の教室をイメージしたクッキーが新発売。軽い食感と黒糖の香ばしさが後を引く味わいです。箱を開けると「モハとデハニ」の2両の電車に。パッケージデザインもお楽しみください。

松川村・安曇野ちひろ公園
トットちゃん広場情報

7月23日にリニューアルオープンした安曇野ちひろ公園(松川村営)では、この秋、楽しいイベントがもりだくさんです。収穫体験や調理体験も随時実施中。詳細は、安曇野ちひろ公園体験交流館(TEL.0261-85-8822)までお問い合わせください。

- トットちゃんの運動会 9月24日(土)
- 秋の手作りパーティー 10月9日(日)
- 安曇野ちひろ公園収穫祭 11月6日(日)
- 電車寄席(仮) 11月27日(日)
- 読み聞かせ

9月11・25日、10月2・23日、11月6・20日

○入園無料 ○公園内施設開館時間=9:00～17:00
○休館日=第2・4水曜日(祝休日は開館、翌平日休館)



2016年7月24日のオープニングイベントのようす

展示関連イベント

パパ's 絵本プロジェクトの絵本ライブ!

11月13日(日) 14:30~

現役のパパたちによる絵本読み聞かせユニット「パパ's 絵本プロジェクト」が、安曇野ちひろ美術館にやってきます! 長新太『キャベツくん』も特別出演予定です。

会場: 絵本の部屋 参加費: 無料(入館料のみ) 定員: 40名(先着順)
申し込み: 要事前予約(ちひろ美術館HP、TEL.0261-62-0772、美術館受付にて)



2011年ちひろ美術館・東京で開催したようす

長新太だらけのおはなしの会
キャベツくんがやってくる!

10月1日(土) 11月5日(土)

会場: 絵本の部屋 参加費: 無料(入館料のみ)
申し込み: 不要(参加自由)



展示関連イベント

安曇野スタイル2016
本のともし

11月3日(木・祝)~6日(日) 9:00~17:00

「愛書総覧 ちひろの本棚」展に関連して、ミュージアムショップでは「本のともし」コーナーを設けます。クラフト作家によるブックカバーやしおり、文庫本サイズのバッグなど、本とともに楽しめるクラフト作品が並びます。



ちひろ美術館に来ましょ!

松川村お嫁さんデー

10月20日(木) 9:00~17:00

松川村のお嫁さんは、入館無料と1ドリンクサービス
この日は、日頃忙しく働く松川村のお嫁さんを、特別に、安曇野ちひろ美術館へご招待。
たまには家事や育児を忘れて、のんびり過ごしてみませんか。
トットちゃん広場のオープンでさらに楽しみ方が広がった安曇野ちひろ美術館へ、この機会にぜひお越しください。



出演: 三遊亭時松、遊興亭福し満 料金: 無料(開館時間内に館内見学をする場合、要入館料) 定員: 80名
申し込み: 要事前予約(ちひろ美術館HP、TEL.0261-62-0772、美術館受付にて)

10月16日(日) 18時より(開場17時半)

秋の夜長の

安曇野寄席

●ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、担当学芸員が展示のみどころなどをお話します。

日時: 毎月第2・4土曜日 14:00~ちひろ展
14:30~世界の絵本画家展または企画展
参加費: 無料(入館料のみ) 申し込み: 不要(参加自由)

●おはなしの会

季節や展示にあわせた絵本の読み聞かせや素話を、親子でお楽しみください。

日時: 毎月第2・4土曜日 11:00~11:30
会場: 絵本の部屋
参加費: 無料(入館料のみ) 申し込み: 不要(参加自由)



撮影: 橋本裕貴

開館情報

安曇野ちひろ美術館は、12月1日~2017年2月28日まで冬期休館となります。2017年は3月1日より開館します。

安曇野ちひろ美術館

http://www.chihiro.jp/

お問い合わせ 安曇野ちひろ美術館 広報担当 奥原 くるやなぎ・畔柳・田邊・入口
〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24
TEL.0261-62-0772 FAX 0261-62-0774
E-mail:apublicity@chihiro.or.jp